

3カ月ぶりの登場となりました。今回取り上げるのは、ニューヨークの都会的センスと哀愁を描いて知られるウディ・アレン監督の代表作の一つ。主人公ハンナとその二人の妹、周囲の人間が織りなすタペストリーのごとき群像劇です。

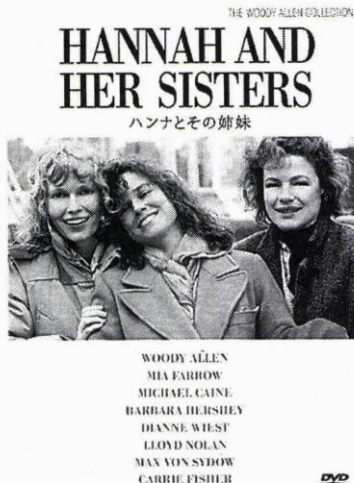
### 心気症が描かれた

## 「ハンナとその姉妹」(1986年)

「本当のことをいうと、気の弱いやつはパニック、ちやうから、医者は言わんがさ」と勝手に解釈してしまっています。真夜中にぱつと目覚めては恐怖にわななき、泣きながら「バスケットボールのような腫瘍が頭の中にある」と叫んだりします。

# 思い込みで続く体の「不調」

長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは、<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>



「ハンナとその姉妹」のDVDジャケット(20世紀フォックスホームエンターテインメントジャパンから発売中)

精密検査のたびに、体の心の調子は悪化していきま

宗し、最後は死への恐怖のために自らの死を願うようになりま

の代表的なものです。心気症の患者は単純で良

私は外来ではあえてこう言います。「あなたの体の症状を完

長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは、<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>

はないか、鍵や眼鏡をなくしたことを認知症の始まりではないかと思ひ込んでしま

者の症状がより悪化するこ

うになるために、応援、支援していき